

5月25日
-
31日
第816号

週刊タイムス住宅新聞

住まいと暮らしの情報紙

●今週の紙面●

- 人コマ.....4
- はうじんぐまねーぶらん.....5
- エコTimeで行こう!.....9
- 全沖縄盆栽展特集.....12
- 不動産情報.....14
- モデルルーム.....20

無料

毎週金曜日発行 ●発行/(株)タイムス住宅新聞社 ●〒904-2234 具志川市州崎7-14 ●電話(098)934-1122(代) FAX(098)934-6677 編集部直通(098)934-2287



インターネットでもマイホームを探せます



ホームページアドレス
http://www.jpress.co.jp/



久高さん宅
(宜野湾市)



▲住宅外観。二つの建物がパティオを挟んで寄り添うように建ち並ぶ。石積みヒンファンや赤瓦が、懐かしいたたずまいを見せている。

吹き抜けのパティオに向かって開かれた造り

— RC住宅 + 伝統的木造家屋 —

パティオを中心に 伸び伸び開放的に過ごす

モダンでシンプルなコンクリート住宅と赤瓦(あかがわら)をふいた六畳一間の木造家屋。宜野湾市の閑静な住宅地の一面にある久高さん宅には、一つの敷地に異なる表現の二つの建物が建つ。在来建築を再現した木造家屋は、離れを意味するアシャギ。独特の雨端(あまはじ)は、吹き抜けのパティオを挟んでダイニングキッチンと向き合う。内外があいまいな造りに、伸びやかで開放的な空気が感じられ、家中から自由に出入りした昔ながらの沖縄の民家をほうふつさせる。「沖縄風」を再現するのではなく、そのものを再現し、家全体の空間の使われ方として違和感なく調和させる。このような住まい方もあるのだということを示している久高さんの住まい。現代の生活の中に先人が感じた心地よさをリアルタイムで満喫する—そんな生活を送っている。

撮影/高野生優(フォトアートたかの)

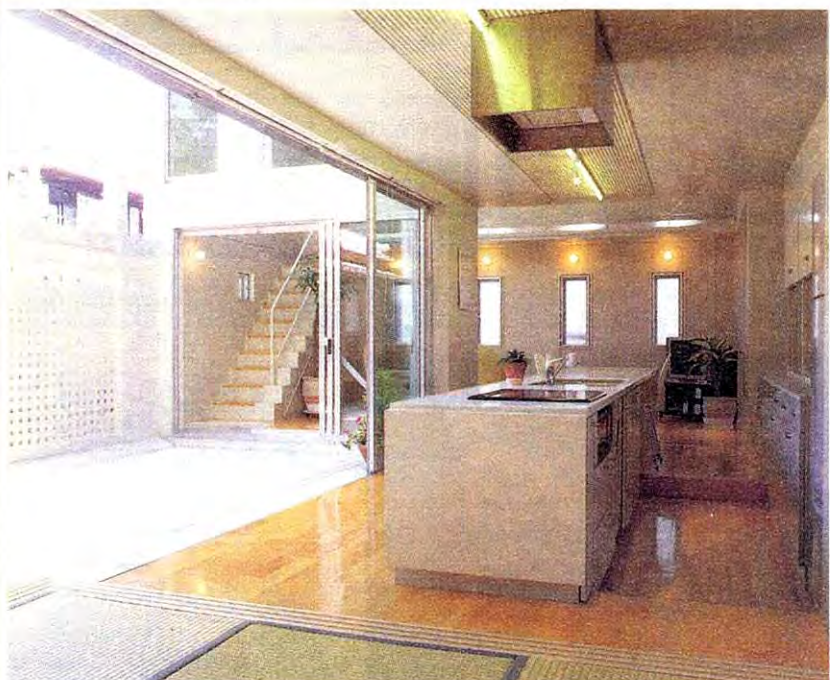
(二ページに続く)



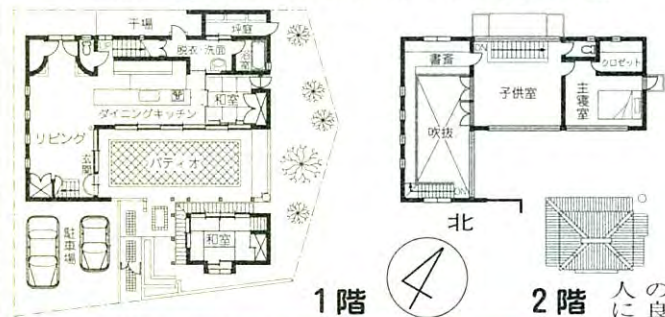
リビングは吹き抜け。明るい空間が広がる



コートと向き合う開放的なダイニングキッチン



吹き抜けのパティオを中心に、室内全体が仕切りのない伸びやかな造りでゆとりを感じさせる。ダイニングキッチン、室内外でもてなしに対応しやすいようパティオに面して配置



設計：空間計画VOYAGER／福村俊治・比嘉裕隆
 施工：渡嘉敷組／真喜志哲 電気：大協電気工事株式会社／金城聡
 設備：株式会社協伸設備／長田利夫
 構造：パス建築研究室／塩真孝彰 躯体構造：壁式RC造・木造
 敷地面積：216.02㎡(約65.3坪)
 1階床面積：65.04㎡(約19.7坪) 2階床面積：50.15㎡(約15.2坪)
 パティオ：30.96㎡(約9.4坪) アシャギ：9.6㎡(約2.9坪)
 家族構成：夫婦、子供2人

「海が見えるし、車の騒音もないので気に入って」

パティオ・アシャギ・室内
 にぎやかな声がかたまって



見どころ
 聞きどころ

吹き抜けのパティオはパティオスペースとして最高の空間。思い思いの場所で楽しく集える。

「最初の子が産まれたときには、家が欲しいなど漠然と思っていたのが、二番目の子が生まれたときにはより一層、その気持ちが強くなって」。家族が増え、子供の成長とともにマイホ

を収集しました。建築事務

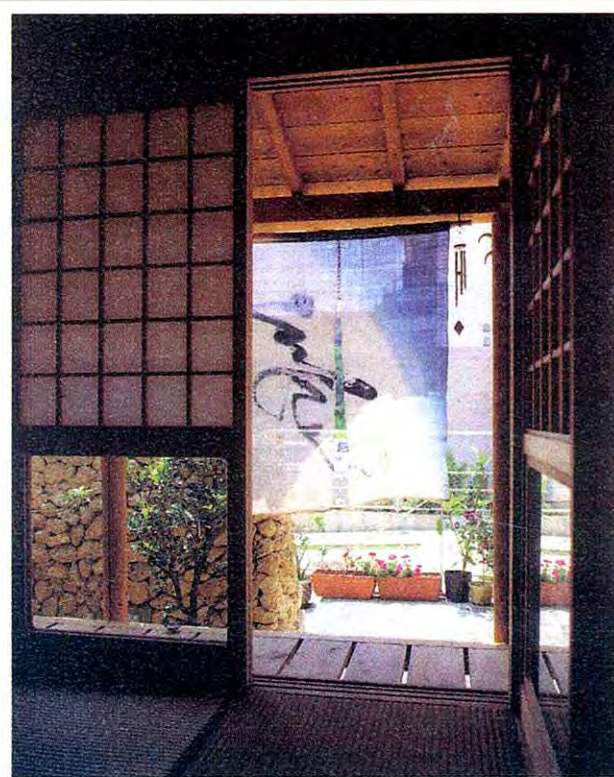
二つの建物をパティオがつなぐ 明るく開放的な生活空間に

所も何件か訪ねたのですが、ある事務所へ行ったら、その事務所の集合住宅の設計が、気になる建築家のものだったんです。

道路に面した駐車場とアシャギの間に伸びる玄関アプローチを抜けると、十坪ほどの広さのパティオがあり、L字型のコンクリート住宅とアシャギはパティオと取り囲むように配置されている。アルゼンチンの住宅にはパティオがあり、そこで来客をもてなすというスタイルに倣(なら)ったそう。そのため、大勢の集いにも対応しやすいよう、ダイニングキッチンはパティオに面して造られている。「動線が短いことや来客に対応しやすい点で機能的です。わたしたちは共働きの立つことが多い。使いやすさは重要なんですよ。」アシャギはパティオを含めた集いの場として使うだけでなく、ときにはゲストハウスにもなる。「アルゼンチンから両親がやってきたときにはここに泊めていただきます。戸を閉めればゆっくり休めるし、家からアシャギの様子が見えるので安心です。自身が気に入るだけなく、今ではほとんど見られなくなった在来建築のアシャギは、木の温もりの良さを体感でき、訪れる人にとっても好評と話す。

住宅平面図

探し、希望していた見晴らしの良い高台の土地を購入後、プランニングに取り掛かった。夫人はアルゼンチン出身の日系二世。海外からの来客やときには留学生との交流もある久高さん一家のライフスタイルから、建築家がある提案をした。沖縄の在来建築で離れ(アシャギ)を造り、そこを来客のもてなし、宿泊、沖縄の文化を



アシャギ。石積み風のヒンヤリのれんが、懐かしく素朴な雰囲気。ゲストハウスとしても利用

伝統的木造家屋のアシャギは ゲストハウスとしても利用

客に対応しやすい点は機能的です。わたしたちは共働きの立つことが多い。使いやすさは重要なんですよ。」アシャギはパティオを含めた集いの場として使うだけでなく、ときにはゲストハウスにもなる。「アルゼンチンから両親がやってきたときにはここに泊めていただきます。戸を閉めればゆっくり休めるし、家からアシャギの様子が見えるので安心です。自身が気に入るだけなく、今ではほとんど見られなくなった在来建築のアシャギは、木の温もりの良さを体感でき、訪れる人にとっても好評と話す。



1階吹き抜けのリビング。白で統一され、明るく開放的

伸びやかに広がる

真っ白な室内空間

懐かしく素朴な雰囲気のアシャギに対し、生活ベールとなるコンクリート住宅は、白を基調としたシンプルデザイン。L字型の建物はパティオに向けて開口部が多く取られているため、風通しや採光も十分。室内全体が明るく清潔な印象を与えている。また、吹き抜けのリビングからダイニングキッチン、和室まで仕切りのないゆつたりとした間取りは、伸びやかな空間での生活を望んだ久高さんの要望通りの仕上がり。パティオまで一体感があるため、全体に広々と充実した雰囲気満ちている。「朝起きて、二階から下りて掃き出し窓のカーテンをさーっと開けると、視野が広がる。とても気持ちがいいですね。」コンクリート住宅と木造住宅の両方を造ってしまったという発想に脱帽してしまう久高さんの住まい。

深げに話す。

現在、三人目の子供の誕生を待ちながら、家族でゆつたりとくつろぎ、ときには友人とにぎやかに会食するなど、さまざまなシーンを楽しんで過ごしているという久高さん一家。「自分の家が気持ちがいいということは、とても大切なことなんですね」。実感しているように、夫人は感慨の様子で伝わった。